情報公開文書

**研究課題名：**経腹的腹膜外修復法による腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における術中腹膜下脱気の影響に関する検討

**１．研究の対象**

2016年5月1日〜2024年6月31日に当院で経腹的腹膜外修復法 (Trans-Abdominal Pre-Peritoneal repair; TAPP法)による腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を受けられた方

**２．研究目的・方法・期間**

TAPP法における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術は、安全に施行可能な鼠径ヘルニア修復術の中の1つの術式です。この手法は、低侵襲性で術後の回復が早く、再発率が低いといった特徴があり当院で主に採用しています。腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復後の合併症の1つとして漿液腫（セローマ）がありますが、ほとんどの場合、臨床的な重要性はありません。しかし、漿液腫は術後の通院日数の増加を引き起こし、患者さま自身がヘルニアの再発と誤解して不安を感じることがあります。さらに、大きな漿液腫は強い疼痛や不快感を伴い、再発や感染のリスクを増加させることがあります。そこで、2016年5月〜2024年6月までにひらまつ病院・外科において、腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術を受けた鼠径ヘルニアおよび大腿ヘルニアの患者さまを対象として、TAPP法を用いた腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術において、術中の腹膜下脱気が術後の漿液腫の発生に与える影響を調査します。これまでのところ本合併症に対する腹膜下脱気の有効性に関する報告はなく明らかになっておりません。本合併症を発症した患者さんを抽出させていただき、その背景因子や周術期因子、手術所見をなど分析し、本合併症と腹膜下脱気の関連性を明らかにすることを目的とします。

**３．研究に用いる試料・情報の種類**

情報：年齢、性別、身長、体重、ヘルニア分類、手術時間、出血量、メッシュおよびタッカーの種類、術後合併症、術後在院日数、再発有無等。

**４．お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒845-0001 佐賀県小城市小城町1000-1

ひらまつ病院・外科

Tel: 0952-72-2111

担当者・研究責任者：ひらまつ病院・外科　副院長　隅　健次

**【この研究での検体・診療情報等の取扱い】**

倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした検体や診療情報等には匿名化処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

このお知らせは2025年1月14日より同年2月20日までの間、研究対象となる患者さんへの公表を目的に、ひらまつ病院ホームページで掲載しているものです。

ひらまつ病院ホームページ: https://www.hiramatsu-hp.or.jp/

なお、この研究内容は、ひらまつ病院における所定の倫理委員会で審査を受け、承認されたものです。